授業科目名	助 産 基 礎 実 習 *Basic Practicum in Midwifery*			担当教員	石山さゆり　永松美雪
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	360（8）
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	周産期の母子とその家族が安全・安楽に、主体的に出産に臨めるために必要な基本的助産診断・技術能力、態度を習得することを目指す。				
到達目標	１．妊娠期の母子の健康状態を診断し、必要な保健指導が理解できる ２．分娩期の母子の健康状態を診断し、分娩介助が実施できる（１０例程度） ３．褥婦の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる ４．新生児の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる				
授業計画	Ⅰ．目標 （妊娠期） １） 妊娠期に必要な診察技術を用い、母子の健康状態を診断できる。 ２） 妊婦の生活行動、心理社会的な側面、出産育児行動を診断できる。 ３） 妊婦とその家族が出産・育児に向けて準備ができるような援助ができる。 ４） 妊婦に必要な保健指導の内容が理解できる。 （分娩期） １）分娩期に必要な診察技術を用い、母子の健康状態を診断できる。 ２）１）の診断に基づき、母子が安全・安楽に分娩が経過できるような援助が実施できる。 ３）母子ともに安全な分娩介助が実施できる。 ４）出産直後の産婦、新生児のケアが実施できる。 ５）正常分娩からの逸脱を予測し、必要な援助が考えられる。 （産褥・新生児期） １）産褥期に必要な診察技術を用い、褥婦の健康状態を診断できる。 ２）新生児の発育・発達、胎外生活への適応（健康状態）の診断ができる。 ３）褥婦のセルフケア能力を高めるための援助とその家族への援助が実施できる。 ４）母乳育児確立のための援助が実施できる。 ５）退院から１ヵ月健診までの母子及び家族の健康状態、家庭環境の診断を行い保健指導ができる。 ６）産後１カ月の母子、家族の健康診断ができ、適切な援助について理解できる。 ７）親子・家族関係や心理状態を診断し、母子及び家族へ支援について理解できる。 Ⅱ．方法 １）実習場所：総合病院と産科クリニックの両施設で実習する。 （福岡赤十字病院、山口赤十字病院、あさの葉レディースクリニック、筑紫クリニック） ２）実習日程：2018 年 1 月 9 日～3 月 2 日（8 週間）				
学習方法	周産期学、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児のアセスメントとケアの科目を学習し、分娩介助技術を習得したのち臨地実習に臨む。実習前に保健指導案の作成を行い、受け持ち事例に合わせた保健指導を行う。分娩経過をアセスメントし、分娩介助を実施する。分娩介助技術は評価表に基づき臨地実習指導者から評価を受ける。夜間実習になる場合もある。				
オフィスアワー	木曜日の昼休み、もしくは必要時メール（石山：s-ishiyama@jrckicn.ac.jp）（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。 実習期間中は実習指導教員が巡回指導を行います。				
テキスト	助産学およびすべての関連科目の図書、文献				
参考文献	助産学およびすべての関連科目の図書、文献				
評価方法	実習評価表(100%)				